

留 監 第 8 2 号

平成30年8月23日

留萌市長 中 西 俊 司 様

留萌市監査委員 岩 崎 智 樹

留萌市監査委員 坂 本 守 正

平成29年度公営企業会計に係る資金不足比率審査意見書の提出について

地方公共団体の財政の健全化に関する法律第22条第1項の規定により審査に付された平成29年度資金不足比率を審査したので、別紙のとおりその意見を提出します。



## 平成29年度公営企業会計に係る資金不足比率審査意見書

### 1 審査の対象

平成29年度決算に基づき算定された資金不足比率及びその算定基礎となる事項を記載した書類。

### 2 審査の期間

平成30年8月14日から平成30年8月23日

### 3 審査の概要

この資金不足比率審査は、市長から提出された資金不足比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類が適正に作成されているかどうかを主眼として実施した。

### 4 審査の結果

#### (1) 総合意見

審査に付された下記の資金不足比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類は、いずれも適正に作成されているものと認められる。

#### 記

	資金不足比率	経営健全化基準	平成28年度 資金不足比率
港湾事業特別会計	— %	20.0 %	— %
下水道事業特別会計	— %	20.0 %	— %
水道事業会計	— %	20.0 %	— %
病院事業会計	9.5 %	20.0 %	3.4 %

## (2) 個別意見

### ① 港湾事業特別会計の資金不足比率について

留萌市各会計歳入歳出決算審査意見書に記載した歳入歳出決算総括表（資料1）からもわかるとおり、歳入歳出差引額が0円で資金不足は無いが、この収支均衡は一般会計からの繰入金84,240千円により保たれているものである。

特別会計は本来特定の収入をもって特定の歳出に充てる仕組みのものであるから、事業運営の一層の効率化と積極的な収入確保に努め、一般会計からの繰り入れは、必要最小限にとどめるよう努力することが求められる。

### ② 下水道事業特別会計の資金不足比率について

留萌市各会計歳入歳出決算審査意見書に記載した歳入歳出決算総括表（資料1）からもわかるとおり、最終歳出差引額が0円で資金不足は無く、収支均衡が図られている。

平成29年度は30,592千円の単年度収支黒字を計上し、収支不足は解消されているが、今後も事業運営の一層の効率化と積極的な収入確保に努め、一般会計からの繰り入れは、必要最小限にとどめるよう努力することが求められる。

### ③ 水道事業会計の資金不足比率について

会計制度の移行に伴う資金不足額の算定方法に係る3年間の経過措置（平成28年度決算まで）が終了し、流動資産は414,828千円、流動負債は122,341千円（建設改良費等の財源に充てるための企業債232,098千円を除外し、固定負債に含まれるその他の企業債9,569千円を算入）となり、差し引き資金剰余額は292,487千円となることから、資金不足は発生せず、指摘すべき事項は無い。

### ④ 病院事業会計の資金不足比率について

水道事業会計と同様に経過措置が終了し、流動資産813,232千円、流動負債1,232,694千円（建設改良費等の財源に充てるための企業債469,083千円を除外）で、419,462千円の資金不足額が発生し、資金不足比率は9.5%となり平成28年度と比較して6.1ポイント増加した。

本年度以降も入院患者及び通院患者の減少や医師確保が困難な状況が続くことが想定され、病院事業経営を取り巻く環境は厳しくなっているが、病院機能の維持・向上に向けた「新 留萌市立病院改革プラン」に基づく目標達成への取り組みを着実に進め、良質な医療を継続して提供できるよう、一層安定した経営改善の確立を強く望むものである。